

科目名	REL210: キリスト教文化入門					担当教員	丹木 博一
開講期	秋	開講時限	火金4限	研究室	4214	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	聖書、イエス・キリスト、信仰、愛、倫理、文化、芸術、宗教間対話						
授業の概要	複数講師による輪講形式で、キリスト教文化の諸相について講義する。イエスは何を語り何を行ったのか、クリスチャンが信じているのはどのようなことかを明らかにし、キリスト教の歴史を踏まえながら、全世界に多大な影響を及ぼすキリスト教文化を多面的に考察する。						
達成目標	キリスト教とはどんな宗教であるかを正しく理解し、表現できる。また、キリスト教文化全般について幅広い関心を持ち、自ら考察を進めることができるようになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義を通してキリスト教の信仰内容とその歴史を理解し、キリスト教文化の諸相について自分自身の関心と問題意識を論述できる。 ・キリスト教文化の諸相を理解し、キリスト教の特徴について問題提起ができる。 ・キリスト教文化に関し自らの選んだテーマについて研究成果をまとめ、分かりやすく発表することができる。 						
評価方法	授業毎の事前課題の提出 (15%)、授業毎のリアクションペーパー (15%)、研究発表 (20%)、期末レポート (2,500字以上) (50%)						
評価基準	<p>授業毎の事前課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。</p> <p>リアクションペーパー：講義内容について問題意識を持って論述展開できるかどうか。</p> <p>研究発表：キリスト教に関する自由研究の成果を分かりやすく発表できるかどうか。</p> <p>期末レポート：最低一冊参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて問いを提起し、先行研究を踏まえつつ理由を挙げて自分の考えを自分の言葉で論じうるかどうか。</p>						
準備学修の時間	本科目の一回 (90分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス：講義内容と課題の説明 宗教とは何か	講義・リアクションペーパー	自分の宗教観を整理し、まとめる。配布資料の復習
2	キリスト教の基本的特徴	講義・リアクションペーパー	テキスト 12-29 頁の予習 配布資料の復習
3	イエスの生涯	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	マルコ福音書の通読・テキスト 82-89 頁の予習
4	旧約聖書 (1) モーセ五書と歴史書	講義・リアクションペーパー	テキスト 30-48 頁の予習 配布資料の復習
5	旧約聖書 (2) 知恵文学と預言書	講義・リアクションペーパー	テキスト 48-61 頁の予習 配布資料の復習
6	新約聖書 (1) 福音書	講義・リアクションペーパー	テキスト 62-86 頁の予習 配布資料の復習
7	新約聖書 (2) パウロの書簡	講義・リアクションペーパー	テキスト 86-105 頁の予習 配布資料の復習
8	キリスト教の歴史 その1 古代から中世まで	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト 106-117 頁の予習 配布資料の復習
9	キリスト教の歴史 その2 宗教改革から現代まで	講義・リアクションペーパー	テキスト 118-121 頁の予習 配布資料の復習
10	フランシスコ・ザビエルと上智大学	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト 122-123 頁の予習 配布資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	ミサ典礼	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	ミサの式次第を調べる。配布資料の復習
12	イエズス会の教育とイグナチオの霊性	講義・リアクションペーパー	本学の教育理念をまとめる。配布資料の復習
13	修道院文化	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト 126-129 頁の予習 配布資料の復習
14	キリスト教音楽 (1)	講義・音楽鑑賞・リアクションペーパー	キリストと音楽の関係を調べる。配布資料の復習
15	暦・シンボル・伝説	講義・リアクションペーパー	テキスト 150-155 頁の予習 配布資料の復習
16	キリスト教音楽 (2)	講義・音楽鑑賞・リアクションペーパー	クリスマスの音楽について調べる。配布資料の復習
17	キリスト教倫理 その1 差別と戦争への問い	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト 116-117 頁の予習 配布資料の復習
18	キリスト教倫理 その2 平和への願いと愛の教え	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト 138-149 頁の予習 配布資料の復習
19	キリスト教美術 その1 神を描くことをめぐる問題	講義・美術鑑賞・リアクションペーパー	テキスト 114-115 頁の予習 配布資料の復習
20	キリスト教美術 その2 東方正教会とイコン	講義・美術鑑賞・リアクションペーパー	テキスト 130-131 頁の予習 配布資料の復習
21	時代の必要に答えた人びと (1) アジジの聖フランシスコ	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	フランシスコについて調べる。配布資料の復習
22	時代の必要に答えた人びと (2) マザー・テレサ	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	マザー・テレサについて調べる。配布資料の復習
23	キリスト教と仏教 その1 自己の探求	講義・リアクションペーパー	仏教の基本的教えについて調べる。配布資料の復習
24	キリスト教と仏教 その2 生きる意味への問い	講義・リアクションペーパー	人生の苦しみの意味について考える。配布資料の復習
25	キリスト教と哲学 その1 信仰と理性	講義・リアクションペーパー	信と知の関係について調べる。配布資料の復習
26	キリスト教と哲学 その2 啓示と救い	講義・リアクションペーパー	罪と救いの概念について調べる。配布資料の復習
27	研究発表 (1) 学生	講義・リアクションペーパー	研究発表の準備
28	研究発表 (2) 学生	講義・リアクションペーパー	研究発表の準備
29	研究発表 (3) 学生	講義・リアクションペーパー	研究発表の準備
30	研究発表 (4) 学生	講義・リアクションペーパー	研究発表の準備 期末レポート提出

テキスト	土井かおる『よくわかるキリスト教』(PHP 研究所) 『新約聖書』(「人間学 I」で配布したもの)
参考書	ペトロ・ネメシエギ『キリスト教とは何か』(女子パウロ会) 『井上洋治著作選集』(日本基督教団出版局)
その他 特記事項	授業には主体的な関心をもって参加して欲しい。なお講師の都合により、授業内容及び順序に変更が生じる可能性がある。

科目名	IDS210: 異文化間コミュニケーション					担当教員	C. Oliver
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4205	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	intercultural communication, linguistics, social psychology, anthropology, critical thinking						
授業の概要	This course provides an introduction to intercultural communication as an area of study. Readings and lectures will cover basic definitions, concepts, and issues related to intercultural communication. As regular homework, students will keep a record of their own intercultural communication experiences. We will also carry out one lengthy intercultural simulation in class. Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.						
達成目標	Students will learn to understand “intercultural communication” (ICC) using concepts coming from linguistics, social psychology, and anthropology; to describe and analyze their own experiences of ICC; and to think critically about ICC in relation to problems in modern societies.						
到達目標	By the end of the semester, students will be able to understand key concepts related to ICC drawn from linguistics, social psychology, and anthropology and how they apply to specific examples; factually describe their own recent experiences of ICC and relate those experiences to concepts discussed in class; and explain, in writing, ways in which specific situations of ICC found in the world today are related to broader social and historical contexts and issues.						
評価方法	Participation 20%, Homework 40%, Tests 40%.						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> • Participation: active participation in everyday class activities, including lectures and discussions; responses in in-class writing activities that demonstrate engagement with class content. • Homework: submitted on time and according to instructions, thoroughly completed, provides factual description where required, demonstrates appropriate application of concepts covered in class. • Tests: demonstrate ability to understand key concepts related to ICC and how they apply to specific examples, demonstrate ability to explain ways that specific situations of intercultural communication are related to broader social and historical contexts and issues. 						
準備学修の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Course overview	Lecture	Read course syllabus thoroughly, review class notes
2	Defining intercultural communication	Lecture, pair work	Read p. 34, review syllabus & class notes
3	“Culture” in intercultural communication	Lecture, pair work	Read pp. 9-10, 12-13; skim pp. 13-27; review class notes
4	Features of human communication: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71; review class notes
5	Features of human communication: meaning and context	Lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71; review class notes
6	Communication and language: language and thought	Lecture, pair work	Write “ICC Experience” homework; read pp. 77-79, 83
7	Communication and language: aspects of meaning	Lecture, pair work	Read pp. 77-79, 83; review class notes
8	Non-verbal communication: silence	Lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9
9	Non-verbal communication: functions	Lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9
10	Edward T. Hall: the first interculturalist	Lecture, pair work	Read pp. 49-50, 56, 96, 133; Write “ICC Experience” HW

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
11	Stereotypes: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 152-153; review class notes
12	Stereotypes: aspects and effects	Lecture, pair work	Read pp. 152-153; review class notes
13	Values: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 16-19, 42-49; review class notes
14	Values: kinds of values	Lecture, pair work	Write “ICC Experience” HW & “Values” HW
15	Culture shock: definition, symptoms, varieties	Lecture, pair work	Read pp. 158-165; review class notes
16	Communication “events”: basic concepts	Lecture, pair work	Write “culture shock” homework; review class notes
17	Communication “events”: dimensions of norms	Lecture, pair work	Review class notes
18	Intercultural training: basic elements	Lecture, pair work	Read pp. 186-187; write “ICC Experience” homework
19	Intercultural training: intercultural simulations	Pair work, lecture	Read Ch. 16, especially pp. 186-187; review class notes
20	Review; Test #1	Lecture, written exam	Study for test
21	Intercultural simulation: do in class	Small-group discussion	Read handouts about simulation
22	Intercultural simulation: follow-up discussion	Small-group discussion, lecture	Write “ICC Experience” homework; review class notes
23	Social and historical contexts of intercultural communication: Quebec	Lecture, pair work	Review class notes
24	Social and historical contexts of intercultural communication: U.S. South	Lecture, pair work	Review class notes
25	Social and historical contexts of intercultural communication: American Indians	Lecture, pair work	Review class notes
26	Power and inequality in intercultural communication	Lecture, pair work	Write “ICC Experience” homework; review class notes
27	Feedback on Test #1; Practical implications for the study of intercultural communication	Lecture, pair work	Review class notes
28	Preparation for Test #2; Paths toward better knowledge and understanding of others	Lecture, pair work	Review textbook pages covered, handouts, class notes
29	Review, Test #2	Lecture, written exam	Study for test
30	Feedback on Test #2; semester recap	Lecture, small-group discussion	Write “ICC Experience” homework; review class notes

テキスト	Hidasi Judit. <i>Intercultural Communication: An Outline</i> (三元社).
参考書	石井 敏、久米 昭元、長谷川 典子、桜木 俊行 & 石黒 武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』(有斐閣)
その他 特記事項	Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.

科目名	LIT201: 英文学概論					担当教員	山本 浩
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4212	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	詩、劇、小説、ソネット、形而上詩、ロマン主義、ヴィクトリア朝、キリスト教						
授業の概要	英文学の3つのジャンル(詩、劇、小説)の代表的な作品をとりあげ、それぞれの作品(劇と小説については抜粋)を精読する。それとともに、作品の作者、技法、テーマ、時代背景などについて考察する。						
達成目標	英文学の研究に必要な用語、概念を理解し、具体的な作品を通して英文学の歴史を把握し、英文学の特徴を述べることができるようになることを目指す。また、文学作品のテーマや社会問題を理解し、自分の意見を論文にまとめることができるようになることを目指す。						
到達目標	学生は、①英文学の歴史と代表的な作家を理解することができるようになる、②英文学の代表的な作品を理解することができるようになる、③英文学の作品についての研究論文が書けるようになる。						
評価方法	小テスト: 50% 小論文: 30% 授業への積極参加: 20%						
評価基準	小テスト: 授業で取り上げた作品をきちんと読んでいるか、作品の技法と内容、テーマ、作者と時代背景をよく理解しているかを見る。 小論文: 課題に沿った内容であるか、よく考えられた議論を展開しているかを見る。 授業への積極参加: 授業での質問・発言・意見表明などを積極的に行なったかを見る。						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	英文学への導入、とくに文学史と文学ジャンルについて	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
2	詩—Shakespeare, Sonnet 18	講義(作品の背景と詩の技法)と講読	講読する詩について辞書と翻訳を使って予習する
3	詩—John Donne, “A Valediction: Forbidding Mourning”	講義(作品の背景と詩の技法)と講読	講読する詩について辞書と翻訳を使って予習する
4	詩—William Wordsworth, “I wandered lonely as a cloud”	講義(作品の背景と詩の技法)と講読	講読する詩について辞書と翻訳を使って予習する
5	詩—John Keats, “Ode to a Nightingale”	講義(作品の背景と詩の技法)と講読	講読する詩について辞書と翻訳を使って予習する
6	詩—Matthew Arnold, “Dover Beach”	講義(作品の背景と詩の技法)と講読	講読する詩について辞書と翻訳を使って予習する
7	詩—G. M. Hopkins, “God’s Grandeur” and “The Windhover”	講義(作品の背景と詩の技法)と講読	講読する詩について辞書と翻訳を使って予習する
8	小テスト(45分)とふりかえり(45分)	小テスト実施と試験問題を使っての復習	小テストのための準備学習
9	ふりかえり	試験問題を使っての復習	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
10	劇—Shakespeare, <i>Hamlet</i> から、 <i>Hamlet</i> の独白を読む。	講義(作品の背景と劇の技法)と講読	講読する劇について辞書と翻訳を使って予習する
11	劇—Shakespeare, <i>Hamlet</i> から “nunnery scene” を読む。	講義(作品の背景と劇の技法)と講読	講読する劇について辞書と翻訳を使って予習する

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	劇—Shakespeare, <i>Hamlet</i> から “graveyard scene” を読む。	講義(作品の背景と劇の技法)と講読	講読する劇について辞書と翻訳を使って予習する
13	劇—Oscar Wilde, <i>The Importance of Being Earnest</i> を読み、作者 Wilde について学ぶ。	講義(作品の背景と劇の技法)と講読	講読する劇について辞書と翻訳を使って予習する
14	劇—Oscar Wilde, <i>The Importance of Being Earnest</i> を読み、風習喜劇について学ぶ。	講義(作品の背景と劇の技法)と講読	講読する劇について辞書と翻訳を使って予習する
15	劇—Oscar Wilde, <i>The Importance of Being Earnest</i> の講読とこの劇の面白さを考える。	講義(作品の背景と劇の技法)と講読	講読する劇について辞書と翻訳を使って予習する
16	劇—Harold Pinter, <i>The Birthday Party</i> を読み、不条理劇について学ぶ。	講義(作品の背景と劇の技法)と講読	講読する劇について辞書と翻訳を使って予習する
17	劇—Harold Pinter, <i>The Birthday Party</i> の抜粋を読み、この劇の「意味」を考える。	講義(作品の背景と劇の技法)と講読	講読する劇について辞書と翻訳を使って予習する
18	小テスト(45分)とふりかえり(45分)	小テスト実施と試験問題を使っての復習	小テストのための準備学習
19	ふりかえり	試験問題を使っての復習	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
20	小説—Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> の抜粋を読み、この小説の時代背景を学ぶ。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
21	小説—Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> を読み、作者 Dickens について学ぶ。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
22	小説—Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> を読み、この小説のテーマを考える。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
23	小説—Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i> を読み、作者 Conrad について学ぶ。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
24	小説—Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i> を読み、この小説の「闇」について考える。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
25	小説—Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i> を読み、この小説のテーマを考える。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
26	小説—Graham Greene, <i>The Heart of the Matter</i> を読み、作者 Greene について学ぶ。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
27	小説—Graham Greene, <i>The Heart of the Matter</i> を読み、この小説のキリスト教を考える。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
28	小説—Graham Greene, <i>The Heart of the Matter</i> を読み、この小説のテーマを考える。	講義(作品の背景と小説の技法)と講読	講読する小説について辞書と翻訳を使って予習する
29	小テスト(45分)とふりかえり(45分)	小テスト実施と試験問題を使っての復習	小テストのための準備学習
30	小論文の講評	小論文を返却し講評する	返却された小論文を読み直す
テキスト	テキストはとくに使用しない。 講読する作品については、事前に配布する。 作品の翻訳は各自で入手する。		
参考書	授業の進行に合わせて、そのつど指示する。		

科目名	LIT201: 英文学概論					担当教員	平野 幸治
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4210	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	bildungsroman (教養小説), parable & narrative (寓話と物語), social issues (社会問題)						
授業の概要	英文学をはじめは「ジャンル」を切り口に詩、劇、小説を取り上げ、次に「個人と社会」という視点を切り口にして作品の中の伝統、文化、風俗、歴史の意味や影響を考察する。作品のプロット・サマリーを英語で読み日本語で要約、指示されたDVDを見てメモを取る。グループでディスカッションや成果の発表を行う。教員の一方通行の講義ではない授業を展開する。発問の仕方、研究の方法論と知識を日常的に検証する。						
達成目標	この授業は、英語で書かれたプロット・サマリーを毎回配布し、学生が英文学研究に必要な用語・概念を理解し、具体的な作品を通して英米文学の歴史や文化を把握し、英文学の特徴を述べる事が出来るようになり、さらに文学作品のテーマや社会問題、比喩を理解して討論し、自分の意見を人前で述べ、論文が書けるようになることを目指す。						
到達目標	学期末には学生は、①グループディスカッションにおいて他者の意見を聞いて適切に質問や意見を述べる事が出来るようになる。②1,500字程度の文章が書け、発表できるようになる。③十分な具体例や作品からの引用を用いて、研究者としての倫理を踏まえた8,000字程度の日本語の論文が書けるようになる。						
評価方法	①授業内のグループディスカッションの報告専用フォームの提出 12回 (フォーム提出2%×12回=24%) ②授業内で個人の課題提出 (1,500字程度) 6回 (課題6%×6=36%) ③研究者としての倫理を踏まえた最終課題 (8,000字) の提出 (10%) ④毎授業の終了時に回収する Shuttle Card に授業に関する質問や意見を適切な日本語で述べる (1%×30回=30%)。						
評価基準	授業の初回時に詳述します。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション: 英文学概論の目的と授業の進め方	講義、DVDの視聴用リストの配布	次回プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
2	【文学ジャンルと物語論】小説とは?	講義と作品理解のための相関図の説明	次回プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
3	【文学ジャンルと物語論】詩とは? (1)	講義と①-1グループディスカッション	次回プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
4	【文学ジャンルと物語論】詩とは? (2) 論文作成における注意点: plagiarism	ディスカッションの結果を踏まえた講義	次回プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
5	【文学ジャンルと物語論】物語: 一人称の語りと三人称の語り	講義と作品理解のための視点の説明	次回プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
6	【パラブル <i>Romeo and Juliet</i> 】寓話・譬え話の持つ意味とは (1)	講義と①-2グループディスカッション	次回の下調べと②-1個人の課題の作成と提出
7	【パラブル <i>Romeo and Juliet</i> 】寓話・譬え話の持つ意味とは (2)	②-1個人の課題の発表と講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
8	【パラブル <i>Tristan and Isolde</i> 】神話と文学 (1)	講義と①-3グループディスカッション	次回プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
9	【パラブル <i>Tristan and Isolde</i> 】神話と文学 (2)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
10	【作品研究 <i>Jane Eyre</i> 】 (1) ヴィクトリア朝とbildungsroman (教養小説)	講義と①-4グループディスカッション	人的相関図の作成と②-2個人の課題の作成と提出

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	【作品研究 <i>Jane Eyre</i> 】(2) 女性の自立と imprisonment (監禁)	②-2 個人の課題の発表と講義	DVD 視聴メモの作成と次回プリントの下調べ
12	【作品研究 <i>Vanity Fair</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-5 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
13	【作品研究 <i>Vanity Fair</i> 】(2) 女性の自立と governess (女家庭教師)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	次回の下調べと②-3 個人の課題の作成と提出
14	【作品研究 <i>Sense & Sensibility</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	②-3 個人の課題の発表と講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
15	【作品研究 <i>Sense & Sensibility</i> 】(2) 婚姻と the class system (階級制度)	講義と①-6 グループディスカッション	DVD 視聴メモの作成と次回プリントの下調べ
16	【作品研究 <i>David Copperfield</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-7 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
17	【作品研究 <i>David Copperfield</i> 】(2) 婚姻と child labour (児童労働)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	次回の下調べと②-4 個人の課題の作成と提出
18	【作品研究 <i>Wuthering Heights</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-8 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
19	【作品研究 <i>Wuthering Heights</i> 】(2) 個人と社会	②-4 個人の課題の発表と講義	DVD 視聴メモの作成と次回プリントの下調べ
20	【作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 】(1) 婚姻と hypocrisy (偽善性)	講義と①-9 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
21	【作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 】(2) 個人と社会	ディスカッションの結果を踏まえた講義	DVD 視聴メモの作成と次回プリントの下調べ
22	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(1) 帝国と 20 世紀の文学	講義と①-10 グループディスカッション	次回の下調べと②-5 個人の課題の作成と提出
23	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(2) 宗主国と植民地	②-5 個人の課題の発表と講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
24	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(3) 異文化理解と文化的衝突	講義と DVD の視聴、プロットの説明	DVD 視聴メモの作成と次回プリントの下調べ
25	【作品研究 <i>Great Gatsby</i> 】(1) アメリカ文学と 20 世紀	講義と①-11 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
26	【作品研究 <i>Great Gatsby</i> 】(2) 現実と American dream (アメリカの夢)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	次回の下調べと②-6 個人の課題の作成と提出
27	【作品研究 <i>The Age of Innocence</i> 】 モラルの対比と Brave New World (新世界)	②-6 個人の課題の発表と講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
28	【作品研究 <i>The Remains of the Day</i> 】(1) 20 世紀と 21 世紀の英文学	講義と①-12 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
29	【作品研究 <i>The Remains of the Day</i> 】(2) 個人と社会	ディスカッションの結果を踏まえた講義	③最終課題の作成と提出
30	21 世紀の英文学の行方と文学研究の意義と個人課題の返却	講義と個人課題の返却と講評	ノートおよびグループディスカッションの整理

テキスト	テキストはない。Sparknotes.com 等の plot summary を用いたプリントを配布。
参考書	David Lodge. <i>The Art of Fiction</i> (Penguin Books)、都甲幸治『21 世紀の世界文学 30 冊を読む』(新潮社)、阿部公彦『小説的思考のススメ』(東京大学出版会)
その他 特記事項	授業初回時に配布する DVD のリストに従い、準備学修・復習として指示された DVD を図書館等でメモを取りながら各自で見ること。

科目名	LNG200: 言語学概論					担当教員	神谷 雅仁
開講期	春	開講時限	月木3限	研究室	4215	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	言語とは、英語史、音素、語形成、生成文法、文／発話の意味、言語のバリエーション						
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストと担当者の準備した資料(様々な練習問題を含む)をもとに講義形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関するレビューを行う。						
達成目標	本講の目標は学生が対象言語となっている英語の音声・音韻の体系、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語構造、および歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。						
到達目標	学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系／構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語と外国語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト1 (35%) 理解度テスト2 (35%) Book Report (20%) 授業参加度／提出物 (10%) 						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト1: 学期前半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 理解度テスト2: 学期後半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 Book Report: Booklistにある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約(章や節ごとに内容をまとめる)と自分の見解(何を学べたか、どのような発見があったか、どんな課題が見つかったかなど)を含めたブックレポートを作成する。 授業参加度／提出物: 授業内での発言や質問(レビュー時)、また提出物の成果 						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview 本講を概観する	講義、ディスカッション	テキスト全体に目を通す
2	What is Language? 人間にとって言語とは何か?	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	テキスト(ch. 1-2)、レジユメの予習・復習
3	What is Language? 言語の定義	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	Reaction paper作成、レジユメの予習・復習
4	What is Language? 言語の特性	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 1-2)、レジユメの予習・復習
5	What is Linguistics? 言語学という分野	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 1-2)、レジユメの予習・復習
6	History of English 英語の歴史: 古英語	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 3-5)、レジユメの予習・復習
7	History of English 英語の歴史: 中英語	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 3-5)、レジユメの予習・復習
8	History of English 英語の歴史: 近代英語	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 3-5)、レジユメの予習・復習
9	Phonetics 音声学: 言語音	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	Phonology 音韻論：音素	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
11	Phonology 音韻論：超分節音素	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
12	Morphology 形態論：形態素とは？	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 10)、レジユメの予習・復習
13	Morphology 形態論：語形成	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 10)、レジユメの予習・復習
14	Syntax 1 統語論 1 伝統文法、アメリカ構造主義言語学	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
15	Syntax 1 統語論 アメリカ構造主義言語学 Review of the first half 前半のまとめ	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
16	Review of the first half 前半のまとめ 理解度テスト 1	講義、質疑応答 テスト	テキスト(ch. 1-12)、レジユメの復習、テスト準備
17	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：文法観 Review of the test 理解度テスト 1 の見直し	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
18	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：句構造規則	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
19	Semantics 意味論：語の意味	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 13-16)、レジユメの予習・復習
20	Semantics 意味論：句・文の意味	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 13-16)、レジユメの予習・復習
21	Pragmatics 語用論 語用論とは：基本概念	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 17-20)、レジユメの予習・復習
22	Pragmatics 語用論 発話行為、会話の含意	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
23	Communication and culture 文化と文脈	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
24	Communication and culture 文化とコミュニケーション	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
25	Sociolinguistics 社会言語学 言語のバリエーション	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 6 & 23-24)、レジユメの予習・復習
26	Sociolinguistics 社会言語学 言語政策	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 6 & 23-24)、レジユメの予習・復習
27	Second Language Acquisition 第二言語習得 外国語教授法	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 25)、レジユメの予習・復習
28	Second Language Acquisition 第二言語習得 様々な第二言語習得理論	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 25)、レジユメの予習・復習
29	Review of the second half 後半のまとめ 理解度テスト 2	講義、質疑応答 テスト	テキスト(ch. 11-25)、レジユメの復習、テスト準備
30	Review of the test 理解度テスト 2 の見直し Course review 全体のまとめ	講義、質疑応答	テスト問題の見直し

テキスト	長谷川瑞穂(編著)『はじめての英語学』(研究社)
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』(講談社現代新書) 大津由紀雄『探検！ことばの世界』(ひつじ書房)
その他 特記事項	この科目は言語研究コースを修了するための必修科目である。また、言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。

科目名	LNG200: 言語学概論					担当教員	柳田 恵美子
開講期	秋	開講時限	火金 4 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、応用言語学						
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストと担当者の準備した資料(様々な練習問題を含む)をもとに講義形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関するレビューを行う。						
達成目標	本講を通じて学生は英語を対象言語にし、音声、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語の構造、および英語の歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。						
到達目標	学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系/構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語と外国語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても、内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々、言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。						
評価方法	・理解度テスト 1 (35%)、・理解度テスト 2 (35%)、・Book Report (20%)、・授業参加度/提出物 (10%)						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・理解度テスト 1 : 学期前半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 ・理解度テスト 2 : 学期後半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 ・Book Report : Booklist にある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約と自分の見解(例: どのような発見があったか)を含めたブックレポートを作成する。 ・授業参加度/提出物 : 授業内での発言・質問(レビュー時)や提出物の成果 						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	本講を概観する	講義・ディスカッション	テキスト第2章 プリントを読む
2	言語とは	講義・ディスカッション	テキスト第1-2章 プリントを読む
3	英語の歴史—英語の始まりと発展	講義・ディスカッション	テキスト第3-7章 プリントを読む
4	英語の歴史—英語の広がり	講義・ディスカッション	テキスト第3-7章 プリントを読む
5	音声学・音韻論 [子音]	講義・ディスカッション	テキスト第8-9章 プリントを読む
6	音声学・音韻論 [母音]	講義・ディスカッション	テキスト第8-9章 プリントを読む
7	音声学・音韻論 [音素]	講義・ディスカッション	テキスト第8-9章 プリントを読む
8	音声学・音韻論 [音韻的特徴]	講義・ディスカッション	テキスト第8-9章 プリントを読む
9	形態論 [語構造]	講義・ディスカッション	テキスト第10章 プリントを読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	形態論 [語構造・語形成]	講義・ディスカッション	テキスト第10章 プリントを読む
11	形態論 [語形成]	講義・ディスカッション	テキスト第10章 プリントを読む
12	統語論 [統語論とは何か]	講義・ディスカッション	テキスト第11-12章 プリントを読む
13	統語論 [句構造]	講義・ディスカッション	テキスト第11-12章 プリントを読む
14	前半のまとめ	講義・ディスカッション	第1回目から13回目までの 内容を復習する
15	前半のまとめ 理解度テスト1	講義・試験	テストの準備
16	統語論 [句構造・文構造]	講義・ディスカッション	テキスト第11-12章 プリントを読む
17	統語論 [文構造]	講義・ディスカッション	テキスト第11-12章 プリントを読む
18	意味論 [語の意味]	講義・ディスカッション	テキスト第13-16章 プリントを読む
19	意味論 [文の意味]	講義・ディスカッション	テキスト第13-16章 プリントを読む
20	語用論 [談話の構造]	講義・ディスカッション	テキスト第17-20章 プリントを読む
21	語用論 [談話の構造・意味]	講義・ディスカッション	テキスト第17-20章 プリントを読む
22	語用論 [談話の意味]	講義・ディスカッション	テキスト第17-20章 プリントを読む
23	ことばと文化・コミュニケーション論	講義・ディスカッション	テキスト第21-22章 プリントを読む
24	社会言語学 [言語と地域]	講義・ディスカッション	テキスト第23-24章 プリントを読む
25	社会言語学 [言語と社会]	講義・ディスカッション	テキスト第23-24章 プリントを読む
26	応用言語学 [コミュニケーション能力]	講義・ディスカッション	テキスト第25章 プリントを読む
27	応用言語学 [言語習得]	講義・ディスカッション	テキスト第25章 プリントを読む
28	応用言語学 [言語教育]	講義・ディスカッション	テキスト第25章 プリントを読む
29	後半のまとめ 理解度テスト2	講義・試験	テストの準備
30	理解度テスト2の見直し 総復習	講義・質疑応答	テストの見直し 全体の復習

テキスト	長谷川瑞穂(編著)『はじめての英語学』(研究社)
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』(講談社現代新書) 大津由紀雄『探検!ことばの世界』(ひつじ書房)
その他 特記事項	この科目は言語研究コースを修了するための必修科目である。また、言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。

科目名	EDU205: 児童英語教育概説					担当教員	狩野 晶子
開講期	春	開講時限	月木5限	研究室	4203	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	児童英語教育、外国語習得、第二言語習得、コミュニケーション、実践						
授業の概要	児童英語教育に関心のある者に向け、児童英語とは何か、その特性と代表的な教授内容を概観する。児童英語に関連して児童心理学、言語習得論、教育学、英語教授法など多岐にわたる専門分野の内容を扱う。学生は講義とグループワーク活動、指導実践、発表を通して児童英語教育についての基礎的な知識を学び、実践活動の疑似的体験を得る。						
達成目標	児童英語教育の基本的知識を学び、児童英語の英語教育における位置づけ、外国語習得および第二言語習得理論との関連から、児童期にはどのような教授法がふさわしいかを知る。児童英語の指導者としての疑似的な指導を体験し、そのために練習を積むことで、児童への効果的な指導が行える基礎力を身につける。						
到達目標	児童英語の教授法の基礎知識と応用アクティビティを実践する体験を通して、指導の際の基本的な観点を知る。さらに学生相互の実践演習を通じて、効果的な実践方を体験的に学び、レッスンプランの組み立て、指導の準備や練習の過程で児童英語教育に必要な表現、語彙、効果的な発音方法を知り実際の指導に生かすことができるようになる。						
評価方法	①授業時に課すコメントシート (10%)、②グループによる小課題・実践発表 (30%)、③モデルレッスンプラン発表 (30%)、④期末課題 (30%)。						
評価基準	①授業の内容を踏まえ、自分の学びを客観視して言語化しているか。②課題のポイントを的確に捉え、実践発表の事前準備、練習が十分になされ、グループで協力して取り組んでいるか。③児童の特性を踏まえた内容で、ねらい・時間配分・レベルが適切で実現可能な内容であるか。発表は明確で段取りに配慮があるか。④学んだ内容を踏まえて省察した内容か。適切な活動案を提示し、その背景と理由を明示しているか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	児童英語教育が目指すもの	講義、グループワーク、コメントシート	プリントの内容を復習整理 ポイントを理解する
2	従来の英語教育を概観する	講義、グループワーク、コメントシート	プリントの内容を復習整理 ポイントを理解する
3	外国語習得における年齢別特徴と教授法	講義、グループワーク、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
4	児童英語教育の基本知識	講義、グループワーク、模擬実践	プリントの内容を復習整理 ポイントを理解する
5	英語教育、第二言語習得研究におけるコミュニケーション能力	講義、グループワーク、コメントシート	プリントの内容を復習整理 ポイントを理解する
6	コミュニケーション能力を育てる	講義、グループワーク、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
7	理論と実践: communication activities	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
8	理論と実践: information gap tasks	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
9	理論と実践: nursery rhymes	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
10	理論と実践: picture books	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	理論と実践: songs	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
12	理論と実践: chants	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
13	理論と実践: TPR	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
14	理論と実践: phonics	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
15	理論と実践: writing	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
16	理論と実践: reading	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
17	理論と実践: シラバスとカリキュラム	指導実践、学生発表、コメントシート	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
18	理論と実践: 児童英語教育における文法・文型事項	講義、グループワーク、模擬実践	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
19	理論と実践: 評価	講義、グループワーク、模擬実践	プリントの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
20	振り返り・発表準備	講義、グループワーク、コメントシート	プリントの内容を復習整理 発表準備と練習
21	発表: モデルレッシンプラン(1)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
22	発表: モデルレッシンプラン(2)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
23	発表: モデルレッシンプラン(3)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
24	発表: モデルレッシンプラン(4)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
25	発表: モデルレッシンプラン(5)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
26	発表: モデルレッシンプラン(6)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
27	発表: モデルレッシンプラン(7)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
28	発表: モデルレッシンプラン(8)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
29	相互評価まとめ [フィードバックセッション]	相互評価、講評、コメントシート	相互フィードバックの準備 プリントの内容を復習整理
30	総評・振り返り	講義、講評、グループワーク	これまでの全体の復習

テキスト	特に指定せず。適宜プリントを配布。授業内容とリンクした参考文献・サイト等については授業内で紹介する。
参考書	上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーションな英語教育を考える: 日本の教育現場に役立つ理論と実践』(アルク)
その他 特記事項	この科目を履修し修了することで、児童英語教育演習 A・B の履修に際して必要となる前提知識と実践演習経験を持つことが出来る。

科目名	JPN210: 日本語教育概論					担当教員	宮崎 幸江
開講期	秋	開講時限	木 1・2 限	研究室	4217	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2 年	連絡先	
キーワード	外国語としての日本語教授法、年少者日本語教育、バイリンガルの言語発達						
授業の概要	日本語が母語ではない人々にどうやって日本語を教えるかを学ぶ。まず、言語教育の方法について基礎となる事柄を学んだあと、具体的に初級の成人学習者にどうやって日本語を教えるかを学ぶ。さらに講義だけではなく、北米の大学で日本語を学ぶ学生と学期を通して一対一でメール交換を行ない、彼らの使用している初級教科書を使用して、レッスンプランを作成し模擬授業を複数回行う。						
達成目標	本科目の目標は、多様化する日本語学習者（例：留学生や研修生、定住外国人とその家族）のニーズや第 2 言語の発達の違いを専門的に理解し、学習者に合った教授法とは何かを理解し実践する力を身につけることである。						
到達目標	学期末には、初級レベルの日本語の授業計画が一人で立て、作成した教案に従って効果的な教室活動の実践ができるようになる。教室活動に必要な教材や教具についても具体的に示され適切な使用ができるようになる。さらに、学習者の日本語のレベルに合わせた言葉の使用ができるようになる。						
評価方法	授業への積極参加 10%、小テスト 30%、模擬授業 30%、期末レポート 30%						
評価基準	<p>授業への積極参加：授業での発言やグループワークへの貢献を評価する。</p> <p>小テスト：既に学習した授業の内容が理解できているか。</p> <p>模擬授業：授業計画、教案作成、実践のスムーズさを総合的に評価する。</p> <p>期末レポート：導入する文法やアクティビティの性格をよく理解し授業計画がたてられているか、実践可能な教案を作成できるか、使用する言語は学習者のレベルに相応しいものかを評価する。</p>						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	日本語教育とは — JSL と JFL	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む（1～2 頁）小テスト準備
2	日本語学習者の多様化	小テスト、解説講義	教科書の該当箇所を読む（1～2 頁）
3	コースデザイン ニーズアナリシス	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む（4～5 頁）
4	シラバスデザイン — シラバスの種類	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む（6～8 頁）小テスト準備
5	言語技能 4 技能とは何か	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む（9～15 頁）
6	言語技能の扱い方 — 統合的アプローチ	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む（16～18 頁）小テスト準備
7	授業活動 — 初級授業の流れ	小テスト、解説講義	教科書の該当箇所を読む（19～25 頁）
8	授業活動 — 中級授業の流れ	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む（26～38 頁）小テスト準備
9	教材・教具 教材教具の種類と特徴	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む（39～45 頁）
10	教材・教具 シラバス・カリキュラムとの関係	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む（44～46 頁）小テスト準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	会話・スピーチ教育 正確さと流暢さについて	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む(47～53頁)
12	会話・スピーチ教育 スピーチ・スキル	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む(54～60頁) 小テスト準備
13	読解教育 初級の教え方	小テスト、解説 講義	教科書の該当箇所を読む(77～85頁)
14	読解教育 中上級教え方	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む(86～90頁)
15	語彙教育 目的と指導方法	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む(119～123頁)
16	作文教育 レベル別目的	講義	教科書の該当箇所を読む(99～106頁)
17	初級教科書「げんき」分析 シラバスと構成	講義、ディスカッション、質疑応答	「げんき」を読み分析
18	初級教科書「げんき」分析 文法説明と練習問題	講義、ディスカッション、質疑応答	「げんき」を読み分析
19	レッスンプランの立て方	小テスト、解説 講義	教科書の該当箇所を読む
20	レッスンプラン作成	講義、ディスカッション、質疑応答	レッスンプラン作成
21	模擬授業 観点：初級文型の導入方法	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
22	模擬授業 観点：初級文型の練習	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
23	模擬授業 観点：初級クラスのインターアクション	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
24	模擬授業 観点：初級クラスの教室言語の使い方	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
25	振り返り	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備
26	模擬授業 観点：誤用に対する訂正の方法	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
27	模擬授業 観点：文字の教え方	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
28	模擬授業 観点：統合的なアプローチ	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
29	振り返り	模擬授業分析	模擬授業準備
30	まとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	期末レポート準備

テキスト	三牧陽子『日本語教授法を理解する本 実践編』(バベルプレス)
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・原則1年生のみ履修可。2年生で履修を希望する学生は事前に教員に面談すること。 ・カレッジフレンド参加希望者は、この科目の履修が必須となる。 ・この科目を履修し修了することで、日本語教育演習の履修が可能となる。 ・カレッジフレンドに参加するため、授業がなくても木1時限と2時限のサービスラーニング枠に他の科目を履修することできない。

科目名	GMN101: ドイツ語 I					担当教員	工藤 花野
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	基礎ドイツ語、初級文法						
授業の概要	初心者にとって「読む・書く・聞く・話す」力の基礎となる文法を中心に、丁寧に時間をかけて進めていきます。対話文やドリルを用いた「読む・書く」練習や、ペアワーク等による会話形式の「聞く・話す」練習を通じて、総合的な基礎力を身に着けます。						
達成目標	「読む・書く・聞く・話す」の総合的な練習により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力を合理的に身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読み方と発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の活用の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・簡単な会話や文章を理解し、作文できる。 ・日常で用いる基本的な語彙を身につける。 						
評価方法	授業時の積極参加 (10%)、毎回の課題提出 (10%)、中間・期末試験 (80%)						
評価基準	授業参加 [個人やペアでの発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する] 課題提出 [授業毎の短い自習課題の提出により、授業内容や文法事項を確認する] 中間・期末試験 [筆記・口頭試験により、文法・読み・書き・発音力を確認する]						
準備学修の時間	本科目の一回 (90分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入、授業概要の説明 ドイツ語のアルファベットと発音・挨拶	演習 (発音)	テキスト S. 7-9 までの整理 次回提出用課題準備
2	[Lektion1] 出会いと自己紹介 動詞の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 10, 13 の整理 次回提出用課題準備
3	[Lektion1] 出会いと自己紹介 sein の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 11, 13 の整理 次回提出用課題準備
4	[Lektion1] 出会いと自己紹介 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 12, 13 の整理 次回提出用課題準備
5	[Lektion2] 家族について尋ねる 名詞の姓と定冠詞・不定冠詞の格変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 14, 17 の整理 次回提出用課題準備
6	[Lektion2] 家族について尋ねる haben の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 15, 17 の整理 次回提出用課題準備
7	[Lektion2] 家族について尋ねる 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 18, 17 の整理 次回提出用課題準備
8	[Lektion3] 明日の予定を尋ねる 不規則な現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 18, 21 の整理 次回提出用課題準備
9	[Lektion3] 明日の予定を尋ねる 命令形	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 19, 21 の整理 次回提出用課題準備
10	[Lektion3] 明日の予定を尋ねる 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 20, 21 の整理 次回提出用課題準備
11	[Lektion4] 買い物に行く (1) 定冠詞類と不定冠詞類	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 22, 25 の整理 次回提出用課題準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	[Lektion4] 買い物に行く(1) 所有冠詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 23, 25 の整理 次回提出用課題準備
13	[Lektion4] 買い物に行く(1) 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 24, 25 の整理 次回提出用課題準備
14	日常単語及び数字表現① 会話表現①	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 40, 42, 76, 78 の整理
15	Lektion1-4 の総括・質疑応答(20分) 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 7-25 の整理 次回提出用課題準備
16	Lektion1-4 の総括・試験解答 [Lektion5] 買い物に行く(2) 名詞の複数形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 26, 29 の整理 次回提出用課題準備
17	[Lektion5] 買い物に行く(2) 人称代名詞の格変化と語順	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 27, 29 の整理 次回提出用課題準備
18	[Lektion5] 買い物に行く(2) 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 28, 29 の整理 次回提出用課題準備
19	[Lektion6] 週末の予定を尋ねる 2格・3格・4格支配の前置詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 30, 33 の整理 次回提出用課題準備
20	[Lektion6] 週末の予定を尋ねる 3・4格支配の前置詞・定冠詞との融合形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 31, 33 の整理 次回提出用課題準備
21	[Lektion6] 週末の予定を尋ねる 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 32, 33 の整理 次回提出用課題準備
22	[Lektion7] 趣味について尋ねる 形容詞の格変化(無冠詞型)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 34, 37 の整理 次回提出用課題準備
23	[Lektion7] 趣味について尋ねる 形容詞の格変化(定冠詞・不定冠詞)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 35, 37 の整理 次回提出用課題準備
24	[Lektion7] 趣味について尋ねる 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 36, 37 の整理 次回提出用課題準備
25	[Lektion8] 昼食を食べに行く 話法の助動詞と現在人称変化	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 38, 41 の整理 次回提出用課題準備
26	[Lektion8] 昼食を食べに行く 話法の助動詞の構文(語順)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 39, 41 の整理 次回提出用課題準備
27	[Lektion8] 昼食を食べに行く 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 40, 41 の整理 次回提出用課題準備
28	日常単語及び数字表現②	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 41-43 の整理
29	Lektion5-8 の総括・質疑応答(20分) 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 26-47 の整理 次回提出用課題準備
30	Lektion5-8 の総括・試験解答 会話表現②	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 78-80 の整理

テキスト	『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [改訂版]』(白水社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが多いので毎回の出席が望ましい。また、辞書の持参を推奨する。

科目名	GMN102: ドイツ語Ⅱ					担当教員	工藤 花野
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	基礎ドイツ語、ヨーロッパ共通参照枠 A1						
授業の概要	ドイツ語Ⅰに引き続き、各課の最初に挙げられたテーマ別の新出単語の発音や意味を確認した後(発音)、基礎的な文法を理解し(文法)、テキスト中の練習問題を一緒に解き(読む)、テーマに沿った聞き取り問題(聞く)、インタビュー形式のペアワーク(話す)をこなし、バランスのとれた基礎力を鍛えながら、より複雑な表現方法を習得します。各回の復習として、授業で理解した知識を元に各自の課題をこなします(書く)。またプリントにより、教科書で扱わない文法事項の説明を補い、総合基礎文法の完成を目指します。						
達成目標	ドイツ語Ⅰで習得した語彙力・文法力を再確認しながら、さらに学習を進めてドイツ語の「書く・読む・聞く・話す」の総合的な練習により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読み方と発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の活用の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・複雑な文章を理解し、作文することができる。 ・新出語彙を身につける。 						
評価方法	授業時の積極参加(10%)、毎回の課題提出(10%)、中間・期末試験(80%)						
評価基準	授業参加 [個人やペアでの発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する] 課題提出 [授業毎の短い自習課題の提出により、授業内容や文法事項を確認する] 中間・期末試験 [筆記・口頭試験により、文法・読み・書き・発音力を確認する]						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion1-3] 動詞人称変化・分離動詞・話法の助動詞他	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	プリント内ポイントの整理 次回提出用課題準備
2	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion4-5] 名詞と冠詞類・前置詞他	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	プリント内ポイントの整理 次回提出用課題準備
3	[Lektion6] どこで何を買い物ができるか 場所を表す前置詞・序数	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 61-62 の整理 次回提出用課題準備
4	[Lektion6] 何を着るか・店頭での会話 冠詞 dies-と指示代名詞の主格・目的格	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 63-64 の整理 次回提出用課題準備
5	[Lektion6] 友人を招く・食品を購入する 人称代名詞の目的格	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 65-66 の整理 次回提出用課題準備
6	[Lektion6] 友人と一緒に食事を作る・依頼 表現 単位の表現・du/ihr に対する命令形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 66-67 の整理 次回提出用課題準備
7	[Lektion6] 店頭の広告を理解する・営業 時間	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 68-70 の整理 次回提出用課題準備
8	[Lektion7] 家族を紹介する① 所有冠詞と3人称の人称代名詞の主格	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 71-72 の整理 次回提出用課題準備
9	[Lektion7] 家族を紹介する② 所有冠詞と3人称の人称代名詞の目的格	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 73-74 の整理 次回提出用課題準備
10	[Lektion7] 日付を表現する・誕生日会 数字と序数・前置詞(日付)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 75-76 の整理 次回提出用課題準備
11	[Lektion7] 誕生日プレゼントを贈る 所有冠詞/3人称の人称代名詞与格(3格)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 77-78 の整理 次回提出用課題準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	[Lektion7] 家族構成・依頼表現 Sie に対する命令形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 79-80 の整理
13	Lektion6-7 の総括・質疑応答(20分)、 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 61-80 の整理 次回提出用課題準備
14	Lektion6-7 の総括・試験解答 [Lektion8] 場所を表す前置詞の種類を確認	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	解答確認/テキスト S. 89 の 整理/次回提出用課題準備
15	[Lektion8] 休暇先の種類と名称について 方向を表す: 場所の前置詞と目的格	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 81-82 の整理 次回提出用課題準備
16	[Lektion8] 休暇先とそこでの活動について 場所を表す: 場所の前置詞と与格	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 83-84, 89 整理 次回提出用課題準備
17	[Lektion8] ホテルでの宿泊と利用案内 話法の助動詞 dürfen	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 84-85, 90 整理 次回提出用課題準備
18	[Lektion8] 禁止表現と依頼表現・ベルリン 観光 話法の助動詞 dürfen / können / müssen	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 86-88 の整理 次回提出用課題準備
19	ベルリンについて	DVD 鑑賞	配布資料を読む 次回提出用課題準備
20	[Lektion9] ベルリン観光 動詞 3 基本形・haben 支配の過去分詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 91-93 の整理 次回提出用課題準備
21	[Lektion9] 過去の表現 haben 支配の過去分詞と現在完了	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 93 の整理 次回提出用課題準備
22	[Lektion9] 道案内 方向を示す前置詞 zu と与格の融合形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 94 の整理 次回提出用課題準備
23	[Lektion9] 電車での移動と過去の表現 sein 支配の過去分詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 95-96 の整理 次回提出用課題準備
24	[Lektion9] 過去の表現 sein 支配の過去分詞と現在完了	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 97-98 の整理 次回提出用課題準備
25	[Lektion9] 過去の表現 現在完了	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 98-99 の整理 次回提出用課題準備
26	[残りの文法事項] werden と未来形・受動形・再帰動詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	プリントの該当箇所の整理 次回提出用課題準備
27	[残りの文法事項] es の用法・副文・zu 不定詞句	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	プリントの該当箇所の整理 次回提出用課題準備
28	[残りの文法事項] 従属の接続詞・関係代名詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	プリントの該当箇所の整理
29	Lektion8-9 の総括・質疑応答(20分) 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 81-100 及びプリ ント整理/提出用課題準備
30	Lektion8-9 の総括・試験解答 [残りの文法事項] 接続詞 I 式・II 式	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	試験解答の確認 プリントの該当箇所の整理

テキスト	藤原三枝子他『CD付き スタート! ―コミュニケーション活動で学ぶドイツ語―』 (三修社)
参考書	斉藤佑史著/荒木詳二『若草のドイツ語文法』(三修社)
履修条件、 前提科目	ドイツ語 I を履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この 言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、 不可とする。
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワーク やグループワークが多いので毎回の出席が望ましい。

科目名	FRN101: フランス語 I					担当教員	谷口 清彦
開講期	春/秋	開講時限	(春)火金2限 (秋)月木1限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	フランス語入門						
授業の概要	フランス語入門者を対象とする。プリントと教科書を併用し、フランス語運用において基礎的な文法事項と会話表現を学ぶ。						
達成目標	フランス語の基本要素(入門文法、発音と綴り字の関係、日常の簡単な表現)を習得し、初歩的なフランス語を正しく理解できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な日常表現を口頭・筆記の両面で運用できる。 ・フランス語らしく発音し、初歩的な文法を理解する。 						
評価方法	第一回授業内試験 45%、第二回授業内試験 45%、小テスト 10%						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：前回の授業で習った文法や語彙が把握できているか ・第一回授業内試験：筆記試験(授業で扱った文法や語彙等が理解できているか) ・第二回授業内試験：筆記試験(授業で扱った文法や語彙等が理解できているか) *全授業回数の1/3以上の欠席により受験資格を喪失する。						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	プリント1: 発音とつづり① 音節、半母音、アクセント記号	講義・練習問題	配布プリント復習(小テスト準備)
2	プリント1: 発音とつづり② 注意すべきつづりと発音	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
3	プリント2: 発音とつづり③ アンシェヌマン、リエゾン、エリヰオン	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
4	プリント3: 主語人称代名詞、人称代名詞強勢形、指示代名詞	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
5	プリント4: 動詞 être と疑問文	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
6	プリント5: 副詞のはたらき、否定文	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
7	プリント6: 動詞 aller と venir、疑問副詞、前置詞 à と de	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
8	プリント7: 形容詞の性数一致①	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
9	プリント7: 形容詞の性数一致②	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
10	プリント8: 指示形容詞と所有形容詞	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
11	プリント9: 好き嫌いの表現① 動詞 aimer、定冠詞	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	プリント9:好き嫌いの表現② 不定冠詞の縮約	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
13	プリント10:不定冠詞と部分冠詞① 動詞 avoir	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
14	プリント10:不定冠詞と部分冠詞② まとめと復習	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習・試験準備
15	試験準備のための質疑応答、第一回授業内試験	試験対策・試験	総合的復習
16	フランス映画鑑賞	DVD視聴	試験結果を踏まえての復習
17	会話練習(教科書 Leçon 0, 1)	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト pp.2-7. 復習 (小テスト準備)
18	会話練習(教科書 Leçon 2)	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト pp.8-11. 復習 (小テスト準備)
19	会話練習(教科書 Leçon 3)	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト pp.12-15. 復習 (小テスト準備)
20	会話練習(教科書 Leçon 4)	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト pp.16-19. 復習 (小テスト準備)
21	会話練習(教科書 Leçon 5)	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト pp.20-25. 復習 (小テスト準備)
22	会話練習(教科書 Leçon 6)	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト pp.26-29. 復習 (小テスト準備)
23	会話練習(教科書 Leçon 7)	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト pp.30-33. 復習 (小テスト準備)
24	プリント11:代名詞	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
25	プリント12:動詞を学ぶ er 動詞	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
26	プリント13:動詞を学ぶ oir 動詞	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
27	プリント14:動詞を学ぶ ir 動詞	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント復習(小テスト準備)
28	プリント15:動詞を学ぶ re 動詞 まとめと復習	講義・練習問題・試験 対策	配布プリント復習・試験準備
29	試験準備のための質疑応答、第二回授業内試験	試験対策・試験	総合的復習
30	答案の返却と解説	講義	総括

テキスト	セシル・モレル『エリック エリックと京の物語:会話編』(朝日出版社)
参考書	田島宏編『コレクションフランス語①入門』、『コレクションフランス語②初級』、『コレクションフランス語③文法』(白水社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。

科目名	FRN102: フランス語 II					担当教員	谷口 清彦
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	フランス語初級						
授業の概要	「フランス語 I」の履修者をおもな対象とする。プリントと教科書を併用し、フランス語運用において基礎的な文法事項と会話表現をフランス語 I に引きつづき学ぶ。						
達成目標	仏語検定 5 級に相当する初級フランス語を周到に理解し、より幅広い表現が可能になる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初級レベルの語彙・文法・表現を多角的に習得する。 ・日常的な場面に応じた基礎的なフランス語を運用できる。 						
評価方法	第一回授業内試験 45%、第二回授業内試験 45%、小テスト 10%						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：前回の授業で習った文法や語彙が把握できているか ・第一回授業内試験：筆記試験（授業で扱った文法や語彙等が理解できているか） ・第二回授業内試験：筆記試験（授業で扱った文法や語彙等が理解できているか） ＊全授業回数の 1/3 以上の欠席により受験資格を喪失する。						
準備学修の時間	本科目の一回（90分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 45 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	フランス語 I の復習①	講義・練習問題	配付プリント復習（小テスト準備）
2	フランス語 I の復習②	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
3	不規則動詞活用の復習	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
4	プリント 1：非人称表現①	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
5	プリント 1：非人称表現②	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
6	プリント 2：代名詞①	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
7	プリント 2：代名詞②	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
8	プリント 3：代名動詞①	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
9	プリント 3：代名動詞②	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
10	プリント 4：中性代名詞	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
11	プリント 5：関係代名詞①	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	プリント5: 関係代名詞②	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
13	プリント6: 強調構文・疑問文①	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
14	プリント6: 強調構文・疑問文②、まとめと復習	講義・練習問題・小テスト、試験対策	配付プリント復習・試験準備
15	試験準備のための質疑応答、第一回授業内試験	試験対策・試験	総合的復習
16	フランス映画鑑賞	DVD 視聴	試験結果をふまえての復習
17	プリント7: 半過去	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
18	プリント8: 複合過去①	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
19	プリント8: 複合過去②	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
20	プリント10: 単純未来①	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
21	プリント10: 単純未来②、条件法	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
22	会話練習(教科書 unité7)	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.40-45. 復習(小テスト準備)
23	会話練習(教科書 unité8)	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.46-51. 復習(小テスト準備)
24	会話練習(教科書 unité9)	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.52-57. 復習(小テスト準備)
25	会話練習(教科書 unité10)	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.58-63. 復習(小テスト準備)
26	会話練習(教科書 unité11)	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.64-69. 復習(小テスト準備)
27	会話練習(教科書 unité12)	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.70-75. 復習(小テスト準備)
28	まとめと復習	講義・練習問題・試験対策	配布プリント復習・試験準備
29	試験準備のための質疑応答、第二回授業内試験	試験対策・試験	総合的復習
30	答案の返却と解説	講義	総括

テキスト	藤田裕二『新定版・えすかるご1』(朝日出版社)
参考書	田島宏編『コレクションフランス語①入門』、『コレクションフランス語②初級』、『コレクションフランス語③文法』(白水社)
履修条件、前提科目	フランス語 I を履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。

科目名	SPN101: スペイン語 I					担当教員	山本 浩史
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペイン、西欧、ラテンアメリカ						
授業の概要	スペイン語は全世界で4億人以上の話者を持つ言語です。ヨーロッパのスペイン及びラテンアメリカの多くの国々でスペイン語が話されています。それぞれの国で多少の違いがありますが、基本は同じです。言語を通じて、スペイン語圏の文化習慣も学びます。授業は前回の復習や概要の説明から始まり、課題と小テストなども行います。						
達成目標	簡単な会話や挨拶、自己紹介などスペイン語で行えることを目指します。その為に、正しい発音とイントネーションを学ぶための発音練習を行います。またスペイン語の基礎文法を理解するために重要な、スペイン語動詞の活用を重点的に学習します。表現を深く理解するためにスペイン、ラテンアメリカの文化や習俗を学びます。						
到達目標	この学習でスペイン語技能検定6級の試験が受けられる程度の学力を目指す。6級の試験内容は動詞の直説法現在までと、名詞、冠詞、形容詞、前置詞、接続詞、疑問詞の用法です。語彙量は500語程度を想定しています。						
評価方法	小テスト(15%)、達成度テスト1(30%)、達成度テスト2(30%)、提出物(15%)、授業参加(10%)						
評価基準	小テスト：前回の授業の復習を行っているか。 達成度テスト1：中間までの内容を把握しているか。 達成度テスト2：前期の内容全体を把握しているか。 提出物：その時に課題になっている動詞の変化や文型を正しく書くことができるか。 授業参加：質問に真面目に答えているか。						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	スペイン語圏とは スペイン語の挨拶 アルファベットと発音	講義 発音練習	挨拶とアルファベットの復習 教科書
2	スペイン語圏とは スペイン語の挨拶 アルファベットと発音	講義 発音練習 復習 前回の復習	教科書 Lección 1 予習
3	名詞の性と数	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 1 復習
4	定冠詞と不定冠詞	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 2 予習
5	肯定文否定文疑問文	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 3 予習
6	規則動詞の活用	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 3 予習
7	規則動詞の用法	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 3 活用復習
8	ser 動詞の活用と用法	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 4 ser 予習
9	estar 動詞の活用と用法	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 4 estar 予習
10	Ser, estar, hay の関係	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 4 復習
11	Ser, estar, hay の使い分け	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 4 使い分け復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	現在形不規則活用	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 5 予習
13	現在形不規則活用とその用法	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 5 復習
14	現在形活用のまとめと復習	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 1-5 復習
15	今までのまとめ 達成度テスト1	講義 前回の復習	テスト
16	現在形不規則活用その2 テスト返却と確認	講義 前回の復習 小テスト	テスト振り返り 教科書 Lección 6 予習
17	現在形不規則活用その2の用法 接続詞	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 6 復習
18	現在形不規則活用その3	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 7 予習
19	現在形不規則活用その3の用法 目的格人称代名詞	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 7 復習
20	Gustar 型動詞 前置詞格の紹介	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 8 予習
21	Gustar 型動詞 前置詞格の用法	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 8 復習
22	Gustar 型動詞のまとめ	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 8 復習
23	再帰動詞 活用形	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 9 予習
24	再帰動詞 活用形と用法	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 9 活用復習
25	再帰動詞のまとめ 無人称文	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 9 復習
26	命令形 活用形	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 10 予習
27	命令形 応用	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 10 活用復習
28	スペイン語の動詞の考え方	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 3~10 復習
29	達成度テスト2	講義 前回の復習	教科書 Lección 1~10 復習
30	前期のまとめ テスト返却と確認	講義 前回の復習	テストのまとめ

テキスト	マヌエラ・アルマラス『Plaza Mayor I』(朝日出版社)
参考書	小林一弘 エレナ・ガジェゴ『スペイン語文法と実践』(朝日出版社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	継続的に復習をすることが望ましい。 また、授業内で意見を求められたら、正解・不正解は問わないので真面目に考えて回答すること。試行錯誤が大事です。

科目名	SPN102: スペイン語Ⅱ					担当教員	山本 浩史
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペインとラテンアメリカ						
授業の概要	スペイン語Ⅰの復習をしながら理解度を高めていきます。現在形のみならず過去形、未来形など、日常会話にかかせない文法事項もまとめて学習していきます。 簡単な日記程度ならスペイン語で読み書きできることを目指します。						
達成目標	日常的な出来事を、過去などの時制の変化を適切に使い表現できることを目指す。そのために、特殊な変化をする過去、未来時制の活用形を重点的に学びます。 合わせて慣用表現などをまなび、決まり文句にとどまらない表現を目指します。						
到達目標	この学習でスペイン語技能検定5級の試験が受けられる程度の学力が身につきます。5級の試験内容は、初級文法(全時制を含み、接続法を除く)までの平易な文章の読み書きができることです。語彙量は1200語程度を想定しています。						
評価方法	小テスト(15%)、中間テスト(30%)、達成度テスト(30%)、提出物(15%)、授業参加(10%)						
評価基準	小テスト：前回授業の復習などを行っているか 達成度テスト1：中間までの内容を把握しているか 達成度テスト2：後期の内容全体を把握しているか 提出物：その時に課題となっている時制の変化を正しく用いることができるか 授業参加：質問を真面目に考えて答えられるか						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	スペイン語Ⅰの復習 基礎表現 名詞と形容詞の関係	講義 発音練習	教科書 Lección 1~4 を読む
2	スペイン語Ⅰの復習 動詞の規則・不規則活用	講義 発音練習 前回の復習	教科書 Lección 5~7 を読む
3	スペイン語Ⅰの復習 目的格代名詞やgustar型動詞	講義 前回の復習	教科書 Lección 1~7 を読む
4	スペイン語Ⅰの復習 再帰動詞やgustar型動詞などのスペイン語独特の考え方。	講義 前回の復習	教科書 Lección 1~7 を読む
5	線過去活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 8 の予習
6	線過去用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 8 の予習
7	線過去用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 8 の復習
8	点過去規則活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 9 の予習
9	点過去用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 9 活用形復習
10	点過去不規則活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 9 の予習
11	点過去用法その2	講義 前回の復習	教科書 Lección 9 の予習
12	点過去と線過去の違い	講義 前回の復習	教科書 Lección 8~9 復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
13	点過去と線過去の使い分け	講義 前回の復習	教科書 Lección 8~9 復習
14	点過去と線過去のまとめ	講義 前回の復習	教科書 Lección 8~9 復習
15	ここまでのまとめ 達成度テスト1	講義 前回の復習 テスト	テスト
16	再帰動詞活用	講義 前回の復習	テストの見直し 教科書 Lección 10 予習
17	再帰動詞用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 10 復習
18	未来形活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 11 未来予習
19	未来形用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 11 未来復習
20	過去未来形活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 11 過去未来 予習
21	過去未来形用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 11 過去未来 復習
22	未来形と過去未来形のまとめ	講義 前回の復習	教科書 Lección 11 復習
23	分詞の用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 12 予習
24	比較級の使い方	講義 前回の復習	教科書 Lección 13 予習
25	最上級の使い方	講義 前回の復習	教科書 Lección 13 復習
26	命令形	講義 前回の復習	教科書 Lección 14 予習
27	命令形~そして接続法	講義 前回の復習	教科書 Lección 14 復習
28	今までの復習	講義 前回の復習	教科書 Lección 3~14 まとめ
29	達成度テスト2	講義 テスト	テスト
30	スペイン語IIのまとめ	講義 前回の復習	テストの見直しなど

テキスト	マヌエラ・アルマラス『Plaza Mayor I』(朝日出版社)
参考書	小林一弘 エレナ・ガジェゴ『スペイン語文法と実践』(朝日出版社)
履修条件、 前提科目	スペイン語Iを履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	継続的に復習をすることが望ましい。 また、授業内で意見を求められたら、正解・不正解は問わないので真面目に考えて回答すること。語学は試行錯誤が大事です。

科目名	CHN101: 中国語 I				担当教員	廣重 聖佐子	
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	第二外国語、中国語						
授業の概要	今年度は教科書の前半部分を学習する。各課は単語と文法解説、本文解説、音読練習、練習問題の順序で授業を進め、2回の授業で1課を終了する。音読練習のあとに本文を音読テストする。授業では本文の音読を中心として、繰り返し練習することで学習の定着をはかる。また同時に中華圏の文化や習慣も学んでいく。						
達成目標	中国語学習に必要な不可欠なピンイン、入門初級程度の基礎的な文法事項を反復練習によって習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読ができる。(ピンインが読める) ・教科書本文の基本的な単語や文法事項が理解でき、和訳ができる。 ・練習問題や宿題プリント等で簡単な和文中訳ができる。 						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の音読テスト (10%) ・当日学習内容の確認としての授業内での提出物 (20%) ・文法事項等の確認として2回の授業内筆記テスト (70%) 						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンインが習得できているか。(音読テスト・ピンインから中国語にする) ・各単元の基本的な単語や文法事項が理解できているか。 ・教科書の本文が理解でき、練習問題の和文中訳ができているか。 						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	第1課 発音(1) 音節、声調	発音練習 ドリル	テキスト pp. 8-11 確認
2	第2課 発音(2) 単母音 複母音	発音練習 ドリル	テキスト pp. 12-15 確認
3	第3課 発音(3) 子音(1)	発音練習 ドリル	テキスト pp. 16-19 確認
4	第4課 発音(4) 子音(2)	発音練習 ドリル	テキスト pp. 20-23 確認
5	第5課 動詞“是”、いろいろな疑問文の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 24-27 確認 事前学習単語シート
6	第5課 動詞“是”、いろいろな疑問文の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 28-29 復習 5課復習プリント
7	第6課 姓の言い方と尋ね方、フルネームの言い方と尋ね方の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 30-33 確認 事前学習単語シート
8	第6課 姓の言い方と尋ね方、フルネームの言い方と尋ね方の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 34-35 復習 6課復習プリント
9	第7課 動詞文、選択疑問文の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 36-39 確認 事前学習単語シート
10	第7課 動詞文、選択疑問文の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 40-41 復習 7課復習プリント
11	第8課 連動文、助動詞“想”の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 42-45 確認 事前学習単語シート

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	第8課 連動文、助動詞“想”の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 46-47 復習 8課復習プリント
13	第9課 動詞“在”と“有”の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 48-51 確認 事前学習単語シート
14	第9課 動詞“在”と“有”の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 52-53 復習 9課復習プリント
15	前半の復習	復習	第1課から第9課までの復習
16	授業内筆記試験①と解説	授業内試験と解説	第1課から第9課までの復習
17	第10課 年月日曜日の言い方、助動詞“得”と“要”の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 55-57 確認 事前学習単語シート
18	第10課 年月日曜日の言い方、助動詞“得”と“要”の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 58-59 復習 10課復習プリント
19	第11課 形容詞述語文の用法、時刻の言い方の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 60-63 確認 事前学習単語シート
20	第11課 形容詞述語文の用法、時刻の言い方の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 64-65 復習 11課復習プリント
21	第12課 お金の言い方、量詞の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 66-69 確認 事前学習単語シート
22	第12課 お金の言い方、量詞の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 70-71 復習 12課復習プリント
23	第13課 年齢の言い方と尋ね方、前置詞“在”の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 72-75 確認 事前学習単語シート
24	第13課 年齢の言い方と尋ね方、前置詞“在”の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 76-77 復習 13課復習プリント
25	第14課 文末の“了”の用法、動詞の重ね型の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 78-81 確認 事前学習単語シート
26	第14課 文末の“了”の用法、動詞の重ね型の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 82-83 復習 14課復習プリント
27	第15課 経験の助詞“过”、比較の前置詞“比”の解説	単語と文法説明	テキスト pp. 84-87 確認 事前学習単語シート
28	第15課 経験の助詞“过”、比較の前置詞“比”の練習	音読練習とテスト ドリル	テキスト pp. 88-89 復習 15課復習プリント
29	授業内筆記試験②の解説	授業内試験と解説	第10課から第15課までの復習
30	後半の総復習	復習	第10課から第15課までの復習

テキスト	陳淑梅・張国璐『いま始めよう!アクティブラーニング』―初級中国語(朝日出版社)
参考書	郭春貴著『中国語検定対策3級・4級 文法編・単語編』(白帝社)
履修条件、前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他特記事項	20分以上の遅刻は欠席とする。

科目名	CHN102: 中国語 II					担当教員	廣重 聖佐子
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	第二外国語、中国語						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は前年度使用した教科書の後半部分を学習する。各課は2回で完結し、単語と文法解説のあと、自分で本文より文法事項をチェックし、和訳を試みる。 ・その後音読練習、例文の会話練習、宿題プリントの和文中訳で学習の定着をはかる。 						
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の初級課程を完了するとともに、学習した構文を自分で分析し、和訳や中訳ができる。 ・音読学習と初級課程の成果として、中国語で自己紹介ができるようにする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読ができる。 ・文法事項が理解でき、和訳や練習問題ができる。 ・例文等を用いて中国語で表現できる。 						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の学習内容の確認として、授業内の提出物 (20%) ・各課の音読テスト (10%)・中国語での自己紹介 (10%) ・授業内の2回の筆記テスト (60%) 						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の筆記テストにより、初級の基本的な文法が理解できており、和訳や中訳ができるか。 ・すでに学んだ文法事項や例文等を用いて中国語で自己紹介を作り、また発表することができるか。 						
準備学修の時間	本科目の一回 (90分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	第14課 時間の長さの言い方、動作行為の完了の助詞“了”の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 74-76 単語と文法事項の確認
2	第14課 時間の長さの言い方、動作行為の完了の助詞“了”の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 77-79 確認 14課復習プリント
3	第15課 動作の対象を表す前置詞、助動詞“可以”と“能”の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 80-82 単語と文法事項の確認
4	第15課 動作の対象を表す前置詞、助動詞“可以”と“能”の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 83-85 確認 15課復習プリント
5	第16課 動作行為の進行表現、助動詞“会”の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 86-88 単語と文法事項の確認
6	第16課 動作行為の進行表現、助動詞“会”の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 89-91 確認 16課復習プリント
7	第17課 前置詞“在”の用法、二重目的をとる動詞の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 94-96 単語と文法事項の確認
8	第17課 前置詞“在”の用法、二重目的をとる動詞の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 97-99 確認 17課復習プリント
9	第18課 経験を表す助詞“过”、選択疑問文の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 100-102 単語と文法事項の確認
10	第18課 経験を表す助詞“过”、選択疑問文の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 103-105 確認 18課復習プリント
11	第19課 助動詞“的”、“一～就”の構文の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 106-108 単語と文法事項の確認

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	第19課 助動詞“的”、“一～就”の構文の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 109-111 確認 19課復習プリント
13	第20課 結果補語、様態補語の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 112-114 単語と文法事項の確認
14	第20課 結果補語、様態補語の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 115-117 確認 20課復習プリント
15	前半の復習	復習	第14課から20課までの復習
16	授業内筆記試験①と解説	筆記試験と解説	第14課から20課までの復習
17	第21課 “是～的”の構文、比較表現“比”の解説	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 118-120 単語と文法事項の確認
18	第21課 “是～的”の構文、比較表現“比”の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 121-123 確認 21課復習プリント
19	第22課 方向補語①単純方向補語の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 124-126 単語と文法事項の確認
20	第22課 方向補語①単純方向補語の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 127-129 確認 22課復習プリント
21	第23課 “把”構文、方向補語②複合方向補語の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 130-132 単語と文法事項の確認
22	第23課 “把”構文、方向補語②複合方向補語の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 133-135 確認 23課復習プリント
23	第24課 程度補語、可能補語の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 136-138 単語と文法事項の確認
24	第24課 程度補語、可能補語の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 139-141 確認 24課復習プリント
25	第25課 主述述語文、受け身表現の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 142-144 単語と文法事項の確認
26	第25課 主述述語文、受け身表現の練習	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 145-147 確認 25課復習プリント
27	第26課 “就要～了”の構文、使役構文の解説	単語と文法解説 本文の解釈	予習テキスト pp. 148-150 単語と文法事項の確認
28	第26課 “就要～了”の構文、使役構文の解説	音読練習と会話練習 音読テスト・ドリル	予習テキスト pp. 151-153 確認 26課復習プリント
29	授業内筆記試験②と解説 自己紹介の発表	筆記試験と解説	第21課から26課までの復習
30	総復習	総復習と解説	第21課から26課までの復習

テキスト	陳淑梅・劉光赤著『しゃべっていいとも中国語』(朝日出版社)
参考書	郭春貴著『中国語検定対策3級4級 文法編・単語編・ヒアリング編』(白帝社)
履修条件、前提科目	中国語Iを履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他特記事項	就職活動等で欠席する学生は事前に申し出ること。 20分以上の遅刻は欠席とする。

科目名	JPN250: 日本語表現法					担当教員	河北 祐子
開講期	春/秋	開講時限	(春)火金3限 (秋)月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	構成、事実・意見・感情、書き言葉と話し言葉						
授業の概要	テキストに従って、基本的な論文の構造を学ぶとともに、論文にふさわしい表現を学ぶ。ペアワーク・グループワークを重視する。宿題・中間発表、最終論文までの書く作業と教員を中心とするフィードバックを通じ、論文にふさわしい文章表現を身に付ける。						
達成目標	自分の日本語による表現を客観的にふり返り、より分かりやすく自分の考えを表現できるよう改善し、大学生らしい論文表現が使えるようになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見、あるいは他人と自分の考え・意見を区別して表現する。 ・論文にふさわしい文章表現を学び、使えるようになる。 ・小論文を書くための論文構成を学び、小論文を完成させる。 						
評価方法	授業時の積極参加 20% 提出物と期限 15% 中間発表 25% 小論文 40%						
評価基準	授業時積極参加：ペア・グループワーク時にほかの学生に迷惑をかけず、自分の意見をきちんと相手にフィードバックすること。提出物と期限：毎回の宿題を次回までに提出すること。中間発表：定められた日程に従った発表を行い、要求されたポイントをきちんと押さえた発表をすること。小論文：授業で学んだ構成に従い、ふさわしい表現で論文を書いているかどうか。期日までに提出すること。						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	クラスオリエンテーション	講義 グループワーク	テキストの構成を理解する。
2	[基礎編] よく使われる文の形、語と表現	講義 ペアワーク	pp.1-8を読んでくる。 課題提出
3	引用、要約、句読点 実際の論文で確かめる。	講義 ペアワーク	pp.8-15を読んでくる。 課題提出
4	表記規則、まとめの練習	講義 ペアワーク	pp.16-22を読んでくる。 課題提出
5	[論文編] 論文とは、論文の構成 実際の論文で確かめる。	講義 ペアワーク	pp.24-28を読んでくる。 課題提出
6	構成の作り方、本論のまとめ方	講義 ペアワーク	pp.29-42を読んでくる。 課題提出
7	書いてみよう①、3種類の文(FOA) 書いてみよう②	講義 ペアワーク	pp.43-47を読んでくる。 課題提出
8	論文のモデル	講義 ペアワーク	pp.48-50を読んでくる。 課題提出
9	[論文編II序論] 序論の役割、背景説明： 事物の説明、先行研究の紹介等	講義 ペアワーク	pp.51-63を読んでくる。 課題提出
10	問題提起、方向付け 書いてみよう。	講義 ペアワーク	pp.64-74を読んでくる。 課題提出

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	全体の予告 〔本論編〕本論の役割	講義 ペアワーク	pp.75-83 を読んでくる。 課題提出
12	論拠提示：データ提示、事柄データ	講義 ペアワーク	pp.84-87 を読んでくる。 課題提出
13	数量データ、文章データ	講義 ペアワーク	pp.87-93 を読んでくる。 課題提出
14	意見提示、データ解釈、考察	講義 ペアワーク	pp.93-99 を読んでくる。 課題提出
15	結論提示、行動提示、部分の予告、部分のまとめ	講義 ペアワーク	pp.100-110 を読んでくる。 課題提出
16	論の展開 書いてみよう。	講義 ペアワーク	pp.111-117 を読んでくる。 課題提出
17	〔論文編〕 結びの役割、全体のまとめ	講義 ペアワーク	pp.118-122 を読んでくる。 序論、論拠 A を書く。
18	タスク 評価、展望提示	講義 ペアワーク	pp.123-132 を読んでくる。 序論、論拠 A を書く。
19	中間発表①	相互評価 質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
20	中間発表②	相互評価 質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
21	中間発表③	相互評価 質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
22	中間発表④	相互評価 質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
23	中間発表⑤	相互評価 質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
24	中間発表振り返り① 〔資料編〕図表、資料に関する表現	講義、グループワーク 論文添削	pp.134-152 を読んでくる。 課題提出
25	展開の技術：例、対比、推論、結論 中間発表振り返り②	講義、グループワーク 論文添削	pp.153-166 を読んでくる。 課題提出
26	論文の付属要素：表題、要旨、キーワード、参考文献等 中間発表振り返り③	講義、グループワーク 論文添削	pp.167-175 を読んでくる。 課題提出
27	中間発表振り返り④ 最終論文作成	グループワーク 個人面談指導	論文作成を進める。
28	中間発表振り返り⑤ 最終論文作成	グループワーク 個人面談指導	論文作成を進める。
29	最終論文作成	グループワーク 個人面談指導	論文作成を進める。
30	授業振り返り	講義 グループワーク	論文提出へ向けて最終確認
テキスト	浜尾麻里、平尾得子、由井紀久子『大学生と留学生のための論文ワークショップ』（くろしお出版）		
参考書	新聞（全国紙）、上智大学短期大学部紀要等		

科目名	SEF200: キャリアプランニング					担当教員	森下 園 (輪講)
開講期	秋	開講時限	月 5 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	キャリアデザイン、ライフコース、社会保障、労働法、卒業生との交流						
授業の概要	本学ソフィア会(同窓会)の支援により、社会の様々な分野で「Women for Others, with Others」を実践している卒業生の方々による講演・質疑応答・グループディスカッションを通して、卒業後のキャリアプランをどう組み立てるか考える。また、あわせて社会人として必要な社会情勢・社会保障制度や労働法・経済の基礎知識についても学ぶ。						
達成目標	卒業直後の人生設計について様々な可能性やその実現に向けて必要なステップを考え、各自のキャリアプランを組み立てることが目標である。またそのために必要な知識・情報を適切に得る方法を身につける。						
到達目標	現在の社会情勢と女性のライフコースの問題を各自で考え(①)、卒業生の講演内容やディスカッションを通して将来の可能性を広げ(②)、社会保障・労働法や経済の基礎知識を適切に得る方法を身につけ(③)、各自のキャリアプランを設計できるようにする(④)。						
評価方法	①現在の社会情勢とライフコースに関するミニレポートを Moodle に提出 (6%) ②卒業生の講演へのリアクションペーパーを Moodle に提出 (4%×10回=40%) 卒業生の講演への質問(授業時および授業後にメールでも受付、1%×10回=10%) ③社会保障・労働法・経済の基礎知識に関する小テスト (8%×2回=16%) ④キャリアプランの作成 (28%)						
評価基準	①新聞・書籍・適切なネット資料を踏まえ、自分の意見も加えて 500~800 字でまとめ、参考資料リストをつけてあるか。 ②卒業生の講演を真剣に聞き、触発された問題意識や新たに気づかされたことを自分の言葉でまとめてあるか、また積極的に授業に参加し発言をしているか ③社会保障・労働法・経済の基礎知識を指示した方法で得ているか ④卒業後のキャリアプランを設計し、その実現のために必要なことは何か、いつ行動するかをきちんと考えているか						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、現代の社会情勢と女性のライフコースについて(森下)	講義、質疑応答	復習: ミニレポート作成
2	社会保障・労働法・経済の調べ方	講義、質疑応答、ミニレポートの指示	予習: Moodle 指定トピック 復習: ミニレポート作成
3	卒業生の講演(1) 金融機関で働くミニレポート提出	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト準備
4	卒業生の講演(2) 英語教材開発	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト準備
5	社会人基礎力と社会人の基礎知識(森下)	講義、質疑応答、グループディスカッション	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト準備
6	卒業生の講演(4) 転職とキャリアアップ小テスト①(Moodleで授業外に受ける)	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト受験
7	卒業生の講演(5) 映像コンテンツのプロデューサー、小テスト①の講評	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト準備
8	卒業生の講演(3) 大学で働く	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	卒業生の講演(6) 子育てと仕事	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト準備
10	卒業生の講演(7) 証券業界	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト準備
11	卒業生の講演(8) フリーランスの仕事 小テスト② (Moodle で授業外に受ける)	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: 小テスト準備
12	キャリアプランの作成(森下) 小テスト②の講評	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: キャリアプラン作成
13	卒業生の講演(9) 航空または旅行業界	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック 復習: キャリアプラン作成
14	卒業生の講演(10) 企業経営 キャリアプラン提出	講義、質疑応答、リアクションペーパー	予習: Moodle 指定トピック
15	これからの社会と生き方(森下) キャリアプラン返却・講評	提出物の返却、ピアチェック、講評	予習: キャリアプランの見直し 復習: 学修ポートフォリオ

テキスト	講演のレジюме・授業内容のプリントを配付
参考書	野村康則『女性のキャリアデザインと就業状況』(安田女子大学紀要 43、2015) 椿ますみ『短大生のキャリアデザインに関する支援活動』(一宮女子短大紀要 45、2006) *上記はいずれも CiNii (学術情報ナビゲータ) にありネット上で読める。
その他 特記事項	本講座は上智大学短期大学部ソフィア会(同窓会)の寄付講座である。社会で活躍されている卒業生の方々がボランティアで講師をご担当下さるものである。なお卒業生の講演内容・講演回は講師の方々のご都合により変更の可能性がある。詳細は9月に Loyola 授業掲示板にアップする。

科目名	ENG250: 留学準備 (イギリス)					担当教員	岩崎 明子
開講期	春	開講時限	月木5限	研究室	4213	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	イギリスの自然・歴史・社会・生活習慣、日本の紹介、安全管理						
授業の概要	この授業では、本学が認定するイギリスのグロースターシャー大学での約4週間の海外短期語学講座プログラムに参加する学生が、同プログラムに関する予備知識や、渡航、現地生活、安全管理に関する留意事項を学び、各自が目的意識を持ち、規律正しい、安心できる留学生活を送ることができることを目指す。授業時間を適宜分け、授業の後半では実践的英語表現の習得を目的とするトレーニングを行う。						
達成目標	学生は留学先で想定される異文化体験への準備を行い、自分自身の学びと成長の軌跡を省察し、目的意識と自信をもって留学に向かうことができるようになる。自国の文化と留学先の異文化を客観的に対比、理解出来るようになる。さらに、留学に必要な英語表現を学ぶことにより、留学先での英語運用とより発展的な英語学習に備える。安全に留学が完遂出来るよう、海外生活に関する知識、心得、及び危機管理の方策を学ぶ。						
到達目標	①イギリス及び日本についての基本的知識を深め、それについて自らの考えを英語で発信できる。 ②トレーニングを通して留学のさまざまな場面に必要な実践的英語表現を習得する。 ③海外生活での基本的マナーおよび危険回避について理解する。						
評価方法	配布資料を読んで、リアクションペーパーに意見を書く 10% PPT発表(イギリスと日本:文化、歴史、伝統)グループ2回、個人1回 30% 英語運用能力向上のための活動(英語スキット、小テスト) 40% 英文「留学の目的」と日本語「安全管理」の各レポート 6% Essay writing: "My Studying Abroad in UK" 300 words, 14%						
評価基準	詳細は1回目の授業で説明する。						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	留学プログラムについて導入 留学の意義、プログラムの概要、	講義、質疑応答	大学について調べる http://www.glos.ac.uk/
2	留学の目的設定、Unit 1 & 2 入国審査での会話、税関での会話	グループワーク	留学の目的について英文 150 words で書く
3	イギリスという国、気候、自然、Unit 3 & 4 初めての挨拶、車の中で	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
4	イギリスの歴史と王室、Unit 5 & 6 家族を紹介される、お土産を渡す	発表、ディスカッション、質疑応答	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
5	*手続きガイダンス、Unit 7 & 8 家の中を案内される、部屋の使い方を教わる	講義、質疑応答、グループワーク	グループワーク 小レポート(英文)提出
6	イギリスの歴史と文化遺産、Unit 9 & 10 家のルールを守る、門限について	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
7	イギリスの移民と多文化、Unit 11 & 12 電話について、車について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
8	イギリスの現代社会、Unit 13 & 14 バスルームの使い方、洗濯について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
9	イギリスの福祉と教育、Unit 15 & 16 掃除について、朝晩の挨拶	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
10	イギリスの英語と世界の英語、Unit 17 & 18 何か頼む、家族の子供と遊ぶ	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	イギリスの音楽、スポーツ、Unit 19 & 20 一緒にテレビを、家事の手伝い	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
12	イギリスの文学と演劇、Unit 21, 22, 23 わからない、伝わらない、YesとNoはっきりと	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
13	中間のまとめ(1) Text 1~23 章小テスト、Unit 24 & 25 家族と会話、自室にこもる	小テスト、グループワーク	小テストとグループワークの準備
14	イギリスの住居とガーデニング、Unit 26, 27, 28 自分の家族、趣味、学校生活について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
15	イギリス人のお茶と食卓、Unit 29 & 30 自分の日常の生活について、友達について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
16	日本の気候、自然、Unit 31 & 32 日本の位置と気候について、日本の教育について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
17	日本人の住居、食べ物、Unit 33 & 34 日本の住居について、日本の食べ物について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
18	日本の伝統文化、Unit 35 & 36 日本の文化・芸能について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
19	日本とイギリスの若者文化	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
20	Unit 37, 38, 39, 40, 41 食前・食後の挨拶、朝の食事、夜の食事、食卓での会話	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
21	Unit 42, 43, 44, 45, 46 嫌いな物、お腹がいっぱい、デザート、食事の仕度と後片付け	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
22	中間のまとめ(2) テキスト 23~46 章復習：小テスト、Unit 50, 52, 79 挨拶	小テスト、講義、グループワーク	小テストとグループワークの準備
23	ガイダンス 安全管理のワークショップ	講義、質疑応答	ガイダンスの準備 小レポート(英文)提出
24	Unit 47, 48, 49, 51 冷蔵庫のもので自分の料理をする、日本料理、家族の人と外食、送迎	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
25	Unit 53, 54, 55, 56, 57, 58 授業中の質問、ファーストフード、レストランで注文、支払い	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
26	Unit 61, 62, 63, 64, 65 スーパーで、デパートでクレジットC、バス・電車・地下鉄	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
27	Unit 80, 81, 82, 83, 84 体の調子が悪い、ケガ病院で、薬局で	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
28	出発前ガイダンス(確定スケジュール・マニュアル配布、出発時帰着時の確認)	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスの準備
29	Unit 86, 87, 88, 89, 90, 91 困った時(忘れもの、盗まれる、迷う、助け、謝る、断る)	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
30	まとめ、Essay “My Study Abroad” 提出	講義、質疑応答、グループワーク	Essay 提出

テキスト	桑原功次著『ホームステイの直前英会話』(ナツメ社) Mandy Barrow “Project Britain -Your Guide to British Life, Culture and Customs” http://projectbritain.com/
参考書	「日本の情報(英文)」Information about Japan (link) http://www.mofa.go.jp/j_info/japan/general/index.html 『海外で困ったら、大使館・領事館のできること』(外務省)
履修条件、 前提科目	今夏イギリスのグロースターシャー大学で行われる海外短期語学研修プログラムに参加することが履修の条件である。

科目名	ENG251: 留学準備 (オーストラリア)					担当教員	宮崎 幸江
開講期	秋	開講時限	月木5限	研究室	4217	オフィスアワー	P.16を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	異文化理解、海外生活と安全管理の基礎知識、日本文化を紹介する英語表現						
授業の概要	この授業では、本学が認定するオーストラリアのボンド大学での約4週間の海外短期語学講座プログラムに参加する学生が、同プログラムに関する予備知識や、渡航、現地生活、安全管理に関する留意事項を学び、各自が目的意識を持ち留学生活を送ることができることを目指す。また、日本文化として茶道を英語で説明し、抹茶を点てる盆略点前まで、できるように英語と点前のトレーニングを行う。						
達成目標	学生は留学先で想定される異文化体験への準備を行い、自分自身の学びと成長の軌跡を省察し、目的意識と自信をもって留学に向かうことができるようになる。自国の文化と留学先の異文化とを客観的に対比、理解できるようになるとともに、茶道を通して日本の文化について学び、英語で交流する力をつける。安全に留学が完遂できるよう、海外生活に関する知識、心得、及び危機管理の方策を学ぶ。						
到達目標	(1) オーストラリア及び日本についての基本的な知識をもち、自らの視点で英語を使って発信できる。 (2) 留学の様々な場面において必要な英語表現の知識を持つ。 (3) 海外での基本的なマナー、及び危険回避について理解する。 (4) 現地で茶道を通じた交流ができる。						
評価方法	発表 25% : オーストラリアのニュース、文化、歴史、伝統などに関して日本語で発表 英語運用能力向上のための小テスト 35% 英語で茶道を紹介し茶の飲み方などを説明するロールプレイ 20% エッセイ 20% (My study abroad 1500 words)						
評価基準	発表 : オーストラリアについて自分で調べた内容を要点をまとめて発表できているか、また、発表を聞く際に質問ができるかを評価する。 小テスト : 教科書の英会話の内容を暗記し、運用できる。 ロールプレイ : 学期末に行うミニ茶会で、茶の飲み方や歴史を説明する。 エッセイ : 留学の目的を英語で明確に述べられる。						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	留学プログラムについて導入 ボンド大学について	講義、質疑応答、ディスカッション	ボンド大学について調べる、教科書①Unit 1~2
2	留学の意義、オーストラリアについて Unit 2~3 入国審査、税関での会話	講義、質疑応答、ロールプレイ	教科書①Unit 2~3を読む。 テスト勉強
3	留学の目的設定、Unit 4~6 ホストファミリーに会ったとき	小テスト1、及びテストの解説、講義	教科書①Unit 4~6を読む
4	茶の湯の歴史と文化について	デモンストレーション	教科書②pp.12~41を読む
5	*手続きガイダンス、Unit 8~10 ホームステイ先で部屋の案内発表	発表1、質疑応答、講義、ロールプレイ	教科書①Unit 8~10を読む、発表準備
6	割り稽古1 お辞儀の仕方、襖の開け方など	講義、実技	教科書②pp.44~53を読む
7	Unit 11~13 家のルール、掃除、洗濯	小テスト2、及びテストの解説、講義	教科書①Unit 11~12までの復習とテスト準備
8	割り稽古2 袱紗の意味、扱い	講義、実技	教科書②pp.54~59を読む
9	Unit 14~15 おみやげ、あいさつ	発表2、質疑応答、講義、ロールプレイ	教科書①Unit 14~15を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	割り稽古3 浴衣の着付け	講義、実技	教科書②pp.64~65を読む
11	Unit 18~20 家族、友達、趣味 Unit 22~24 日本の生活	小テスト3、及びテストの解説、講義	テスト準備、教科書①Unit 11~15までの復習
12	割り稽古4 茶巾のたたみ方、茶筌通し	講義、実技	教科書②pp.66~67を読む
13	Unit 25~27 日本の家、教育制度、観光地 Unit 28~30 日本の武道、歴史、文化	発表3、質疑応答、講義、ロールプレイ	教科書①Unit 25~30を読む
14	割り稽古5 茶の飲み方、お菓子の食べ方	講義、実技	教科書②pp.68~69を読む
15	Unit 31~33 食事のマナー、あいさつ Unit 34~36 食事について	小テスト4、及びテストの解説	テスト準備
16	盆略点前 グループ1 道具の準備 グループ2 客	講義、実技	教科書②pp.78~105を読む
17	Unit 37~39 食事の会話 Unit 40~41 食事を手伝う	発表4、質疑応答、講義、ロールプレイ	教科書①Unit 42~53を読む
18	盆略点前 グループ2 道具の準備 グループ1 客	講義、実技	教科書②pp.78~105を読む
19	Unit 42~43 食事を作る、ふるまう	小テスト5、及びテストの解説	テスト準備 教科書①Unit 42~53を読む
20	盆略点前 グループ1 茶を点てる グループ2 客	講義、実技	教科書②pp.78~105を読む
21	意思表示の仕方、頼み方 Unit 44~47	発表5、質疑応答、講義、ロールプレイ	
22	盆略点前 グループ2 茶を点てる グループ1 客	講義、実技	教科書②pp.78~105を読む
23	危機管理ガイダンス 安全管理のワークショップ	講義、質疑応答	ガイダンスの準備
24	Unit 48~51 家族と行動する(手伝い、散歩、テレビを見る)	小テスト6、及びテストの解説	テスト準備 教科書①Unit 48~51を読む
25	盆略点前 グループ1 茶を点てる グループ2 客	講義、実技	教科書②pp.78~105を読む
26	Unit 52~55 門限、外出、送り迎え	発表6、質疑応答、講義、ロールプレイ	教科書①Unit 52~55を読む
27	盆略点前 グループ2 茶を点てる グループ1 客	講義、実技	ロールプレイ準備 ミニ茶会準備と練習
28	出発前ガイダンス(確定スケジュール・マニュアル配布、出発時帰着時の確認)	講義、質疑応答	ガイダンスの準備
29	日本文化を紹介するロールプレイ ミニ茶会を英語で行う	ロールプレイ	Essay 準備 ミニ茶会準備と練習
30	日本文化を紹介するロールプレイ ミニ茶会を英語で行う	ロールプレイ	Essay 提出

テキスト	①桑原功次『ホームステイの直前英会話』(ナツメ社) ②淡交社編集局『茶席で話す英会話』(淡交社)
参考書	谷晃『What is Chanoyu? 茶の湯って何?』(淡交社)
履修条件、前提科目	今年度オーストラリアのボンド大学で行われる海外短期語学研修プログラムに参加することが条件である。
その他特記事項	授業内で浴衣の着付けを教える。希望者は浴衣を各自用意する。